

ลมจากกรุงเทพฯ
バンコクの風



JSPS
BANGKOK
NEWSLETTER
2023 Vol.1

Wat Paknam (Bangkok, Thailand)

ワット・パクナム (タイ・バンコク)



JSPS BANGKOK
CONTENTS

センター長あいさつ | Greeting from the Director

センター、スタッフ紹介 | Introduction of JSPS Bangkok Office

大特集 | PMUC Research for Thailand's Competitiveness 2023 :
Creating Thailand's Economy, Linking the World with Research
and Innovation 参加報告

01 小特集 | Interview with Dr. Adichai Pornprommin 06

02 活動報告 | Activities 09

コラム | Column 16

03 アクセス&コンタクト | Access & Contact 17

センター長あいさつ Greeting from the Director

バンコク研究連絡センターの活動報告書『バンコクの風』の2023年度第1号をお届けします。COVID-19のため、2022年4月からバンコクオフィスは私1人となり、さまざまな活動が制限される中、『バンコクの風』の発行も中止しておりました。しかし、COVID-19が収まった2023年4月から、一気に4名の新しいスタッフが着任し、バンコクの風の発行も含め、諸活動を再開することができました。

これまでバンコクセンターは、6つのJSPS同窓会（バングラデシュ、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア）を担当していましたが、今年4月から、新たにインド同窓会（IJAA）も担当することになりました。IJAAは6番目のJSPS同窓会として2006年に設立され、アジアでは最も古く、会員数も400名を超える大きな同窓会です。

今年度も7つのJSPS同窓会の活動支援を中心に、JSPSネットワークの拡充と強化、そして国際共同研究の推進支援に、センター職員一丸となって努力していきますので、当センターへの活動に対するご理解とご支援をお願いします。

バンコク研究連絡センター長
大谷 吉生



We are pleased to present the first issue of 2023 of JSPS Bangkok Center's activity report "Wind from Bangkok".

Due to COVID-19, I had been the only person in the Bangkok office from April 2022 to March 2023. While various activities were restricted, the publication of "Wind from Bangkok" was also suspended. However, from April 2023, when COVID-19 subsided, four new staff members came to JSPS Bangkok Office, and we were able to resume various activities, including the publication of "Wind from Bangkok".

Bangkok Center has been supporting six JSPS alumni associations (Bangladesh, Thailand, Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia). From April this year, we are also in charge of Indian alumni association (IJAA). The IJAA was established in 2006 as the sixth JSPS alumni association, and is the oldest and largest alumni association in Asia with over 400 members.

Supporting the activities of the seven JSPS alumni associations, the center staff will work together to expand and strengthen the JSPS network and support the promotion of international joint research. We appreciate your support and cooperation.

Yoshio Otani
Director of JSPS Bangkok Office

センター、スタッフ紹介 Introduction of JSPS Bangkok Office

日本学術振興会バンコク研究連絡センター（以下、バンコクセンター）は Serm Mit Tower の 10 階にあり、バンコクの中心部にある MRT スクンビット駅と BTS アソーク駅から徒歩約 5 分という便利な場所に位置しています。

着任から 3 年目を迎える大黒柱の大谷センター長のもと、今年 4 月から、副センター長 2 名、国際協力員 2 名が新たに配置されました。追川副センター長は、好奇心と愛嬌とガッツにあふれたひまわりのような長女。億谷国際協力員は、慎重さと情報系への強さを発揮して手堅く仕事をこなす一方、タイ音楽に魅了されカラオケでタイの歌を必死に練習する長男。小西国際協力員は、持ち前の社交性と現地の人と見まがう風貌でアジア各国の現地コミュニティに溶け込む器用な次男。最年長の福田副センター長は個性豊かなメンバーの団結を醸成する母親役。このような布陣で、両職の不在が続いたバンコク研究連絡センターの活動をアフターコロナの機運に乗せて加速すべく、日々試行錯誤しながら活動しています。バンコクにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



バンコクセンターが現在力を入れているのは、日本学術振興会（JSPS）の事業経験者で構成される海外同窓会支援です。バンコクセンター所轄の同窓会組織は現在 7 か国（インド、バングラデシュ、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア）あり、各同窓会は毎年、理事会、総会やシンポジウムを開催するなどして活動しています。これらの活動がより一層活性化し、日本との研究交流が促進されるよう、日本からの講師招へい等の費用補助、JSPS の事業説明等を行って支援しています。また、今年度は同窓会の横のつながりを醸成するため、7 同窓会総会の開催を試みました。このほか、現地の学術振興機関や日本関係機関との連携、日本の学術情報の発信・海外の学術動向等の情報収集などの活動を通じて南アジア・東南アジア地域における JSPS ネットワークを拡充・強化してまいります。引き続き当センターへの温かいご支援をお願い申し上げます。



左から小西国際協力員、追川副センター長、大谷センター長、福田副センター長、億谷国際協力員
From left to right, Mr. Konishi, Ms. Oikawa, Dr. Otani, Ms. Fukuda, Mr. Okuya

Under the direction of Director Otani, who is now in his third year, two new deputy directors and two International Program Associates have been assigned since April of this year. We appreciate your continued support for our center.

大特集

PMUC Research for Thailand's Competitiveness 2023: Creating Thailand's Economy, Linking the World with Research and Innovation 参加報告（センター長 大谷吉生）

バンコク研究連絡センターでは、タイのカウンターパートであるタイ学術研究会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、バンコクで開催される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、現地の最先端の学術情報の収集に努めています。今回は、タイの研究資金配分機関の一つである Program Management Unit for Competitiveness（PMUC）が開催したイベントに関する大谷センター長の参加報告をお届けします。

1. はじめに

4月26～27日、タイの研究資金配分機関の一つである国家競争力強化のためのプログラムマネジメントユニット（Program Management Unit for Competitiveness：PMUC）主催のイベント「Research for Thailand's Competitiveness 2023」が、昨年 APEC 2022 が開催されたタイ・バンコクのクイーン・シリキット国際会議場（QSNCC）において開催された。テーマは Creating Thailand's Economy, Linking the World with Research and Innovation（タイ経済の創出、研究とイノベーションで世界をつなぐ）で、私は二日目のパネルディスカッションに参加した。タイ政府が推進する産官学の連携による国家競争力向上の取り組みの一端を紹介する。



会場となった QSNCC

Program Management Unit for Competitiveness（PMUC）の概要と経緯

2019 年以前は、タイ学術研究会議（NRCT）、タイ国家イノベーション庁（NIA）、タイ農業研究開発機構（ARDA）、保健システム研究所（HSRI）の 4 つの機関が公的研究の管理を担当していた。これに加え、高等教育、科学、研究、イノベーションシステム改革の一環として、地域開発のためのプログラムマネジメントユニット（PMUA）、人材育成、および研究、イノベーションのためのプログラムマネジメントユニット（PMUB）、国家競争力強化のためのプログラムマネジメントユニット（PMUC）の 3 つのユニットが設立された。

PMUC は、高価値商品やサービスを開発して世界市場に参入できるようにするイノベーションを生み出し、タイの官民間の協力を促進することで、国家の競争力を高めることを目的とした研究資金配分機関である。中小企業から大企業まで、企業の共同投資を促進している。

（PMUC Website の内容の一部を要約：<https://pmuc.or.th/en/about-2/>）

2. パネルディスカッション

2.1 09:30 - 10:15 “Deep Tech Accelerator: Ventures Growth Factors”

シンガポールの企業の Origgin の代表や Grow アクセラレータの代表、タイ国立科学技術開発庁 (NSTDA)、Food Innopolis の Dr. Akanong Changbua がパネリストを務めた。NSTDA の Dr. Aknong から、Deep Tech（社会問題を解決できるような高度な科学技術）の育成には 5～10 年の時間がかかり、アクセラレータの仕事は、①良いテーマと良いチームを探し出すこと、②そのチームを戦略的パートナーと結びつけること、そして、③育成、維持すること、との発言があった。また Origgin の代表からは、シンガポールの大学教員は給料が高く名声もありなかなかビジネスに手を出さないため、協力を依頼する対象は、博士課程の大学院生とのことであった。



パネルディスカッション 1 Deep Tech Accelerator : Ventures Growth Factors

10:15 - 10:45 “How to transform SME to IDE”

パネリストは、Chulalongkorn University の Dr. Yuttanant Boonyongmaneerat と IPI Singapore の代表がオンラインで参加した。Dr. Yuttanant から、自動車産業などさまざまな場面で必要となる表面処理技術に関する中小企業（SME: Small and Medium Enterprise）をまとめて、IDE

（Innovation-Driven Enterprise）に成長させた話が紹介された。Dr. Yuttanant の役割はまさに仲介人で、いかに信頼を築くかに尽力したとのことであった。また、中小企業が参加する集会を開いても、参加者は自分から発言してくれず、他社の情報を得たいと集まっているので、質問の仕方に工夫が必要とのことであった。例えば、現在抱えている問題点、課題は何かを聞く場合でも、そのまま聞いても誰も発言してくれないため、明日神様が願い事を叶えてくれる、3つのお願いができるとしたら、何を願いますか、というように問いかけるなど。



パネルディスカッション 2
How to Transform SME to IDE

10:45 - 12:00 “Success cases on driving research to commercialisation”

Siam Bioscience Co., Ltd.、Meticuly Co., Ltd.、Thai Organic Consumers Association (TOCA)、Winona Feminine Co., Ltd.の4社の代表者が、大学の研究成果を商品化につなげた成功例をタイ語で紹介した。

13:00 - 14:30 “Using Global Partnership to Strengthen Thailand's Competitiveness”

Dr. Samphan Singharatwaraphan, Chairman of the Sub-Committee of the Global Partnership Programme, PMUC からまず PMUC の Global Partnership Program の概要について説明があった。その後、中国の CASICCB, British Embassy Bangkok, Stockholm のタイ大使館 TNIU, スウェーデンのベンチャー支援企業 Epicenter, スペイン大使館 CDTI の各代表からそれぞれの取組について紹介があった。Epicenter は Google, Microsoft と立ち上げも支援したとの企業である。スウェーデンはバイキングに起源を持つので、もともと国内だけでなく、海外進出に力を注いできた国である。ストックホルムはシリコンバレーに続いてユニコーン企業が多い都市とのことだ。



パネルディスカッション 4
Using Global Partnership to
Strengthen Thailand's

会場から Epicenter の代表に対し、各国の文化的違いはどのように支援に影響するかとの質問があり、代表よりこれが正に最重要課題であり、それぞれの国の文化に合わせた支援策を構築するのが Epicenter のモットーとの回答があった。

15:10 - 16.00 “Lesson learned from South Korea - Thailand: How to build Global Collaboration”

モデレータは Dr. Jeong Hyop Lee, Senior Consultant of the PMUC Global Partnership Programme、パネリストは韓国 AI 企業 Naver と FATOS の代表、AI 企業とともに車両認識システム、地域医療システムを開発したプリンス・オブ・ソクラ大学(PSU)とチェンマイ大学(CMU)。



PSU の地域車両認識プラットフォームの説明

韓国の AI 企業は、2 つの PMUC のプラットフォームの AI 活用で支援してきた。一つは PSU の警察の車両認識システムで、交通事故などの車両を追跡するもの。もう一つは CMU のチェンライ病院の AI 医療システムである。Lee 氏は、もともとあるシステムを維持しながら、それらを統合して新しいサービスを提供するのが大きな課題であったとのこと。



CMU の地域医療プラットフォームの説明

3. おわりに

最後のパネルディスカッションは、韓国の AI 企業とタイの大学が組んで開発したいずれも地域に根付いたシステムの開発例である。日本の企業の名前がないことに寂しさを感じるとともに、AI の分野で日本が取り残されているような気がした。タイはここ 20 年程度で大きな発展を遂げたため、研究資金支援システムが整っているとは言えない。日本と比べ、柔軟に新たなシステムを導入できる反面、結果が伴わなければ、また新たなシステムが導入されるという、朝令暮改の感否めない。このような状態に陥らずに、如何にタイに合った研究支援システムを確立するか、今後に期待したい。

小特集

Interview with Dr. Adichai Pornprommin

JSPS provides various international programs for research in Japan. We asked a researcher who has been to Japan using one of the JSPS fellowship program (Bridge Fellowship Program). We hope that the article will spark your interest in JSPS international programs.

* The copyright for contributed articles, papers, figures, photos, etc, belongs to the respective authors. Please refrain from unauthorized reproduction or reposting.

JSPS ではさまざまな国際交流事業を展開しています。今回は、国際交流事業の一つである Bridge Fellowship Program を通じて訪日された研究者にインタビューを行いました。この記事を通じて、海外の方に JSPS 国際交流事業に興味を持っていただければ幸いです。

※寄稿の記事・論文、図表、写真等の著作権は執筆者に帰属しています。無断複製や無断転載はお控えください。



Adichai Pornprommin
Associate Professor
Department of Water Resources Engineering, Faculty of
Engineering, Kasetsart University
Degree obtained: D.Eng. (Civil Engineering)

• Could you please let us know yourself?

I am currently employed as an Associate Professor at Water Resources Engineering Department, Engineering Faculty, Kasetsart University in Thailand. I earned my bachelor's degree in civil engineering from Chulalongkorn University, Thailand. After working for a year, I returned to pursue my master's degree in water supply, drainage, and sewerage engineering at the Asian Institute of Technology, Thailand. Subsequently, I was awarded the Japanese Government (MEXT) Scholarship to undertake my doctoral studies in Hydraulic Engineering Laboratory at Nagoya University, Japan, where I was fortunate to work under the guidance of Emeritus Prof. Tetsuro Tsujimoto. Following the completion of my doctoral degree, I returned to Thailand and served as a lecturer at Burapha University for one year before joining Kasetsart University. I have been part of the Water Resources Engineering Department since then. My primary areas of research expertise encompass River Engineering, Geomorphology, and Potable Water Distribution Systems.

• **When, how long, and where did you go in Japan through the Bridge fellowship program? And what did you do at the time?**

I participated in the Bridge Fellowship Program, during which I spent one month at the Disaster Mitigation Research Center (減災連携研究センター), Nagoya University, from October 17 to November 15, 2022. During this time, I collaborated with Prof. Takashi Tashiro on several projects. Our main focus was on initiating studies related to river flow and water quality prediction, as well as disaster mitigation and ecosystem conservation in river floodplains. Our ultimate goal is to apply our research to the Chao Phraya River in Thailand and the Kiso River (木曽川) in Japan."




Enjoying a traditional Japanese lunch set with Japanese researchers during the Kiso River survey.

• **Why did you join the Bridge fellowship program?**

I joined the Bridge fellowship program because of my longstanding academic connection with Prof. Dr. Takashi Tashiro. During my doctoral study at Nagoya University, we were both doctoral candidates in the Hydraulic Engineering Laboratory, under the guidance of the same advisor. Later, Prof. Dr. Takashi Tashiro assumed the role of Vice Director and Designated Professor at the Disaster Mitigation Research Center, Tokai National Higher Education and Research, Nagoya University. Our research interests naturally aligned, particularly in areas related to enhancing the resilience of essential lifeline services during disasters. Additionally, we recognized the importance of precise forecasts of river flow and water quality as integral components of disaster warning systems, not only for floods but also for addressing various environmental and ecological concerns. This collaboration between us not only yields mutual benefits but also broadens our research horizons and extends our professional networks among experts in water resources in both Thailand and Japan.

• **What do you think about the JSPS programs which you have joined? How was the JSPS program influenced you and your career?**

Before participating in the Bridge Fellowship Program, I had the privilege of being awarded two other JSPS fellowships – a Postdoctoral Fellowship in 2007 and an Invitational Fellowship in 2015. During both of these periods, I had the opportunity to collaborate closely with Prof. Norihiro Izumi from Hokkaido University. Prof. Izumi had previously served as a visiting professor and my master's adviser at Asian Institute of Technology. This collaboration led to the establishment of a strong relationship between my Department of Water Resources Engineering at Kasetsart University and two laboratories at Hokkaido University. Our collaboration involved various activities, including seminars, workshops, and short-term research visits, primarily focused on the International River Interface Cooperative (iRIC) software, developed by Hokkaido University. These interactions fostered valuable exchanges between my department faculties and the researchers at Hokkaido University. Japan's robust culture of disaster preparedness, along with its wealth of tools and approaches for addressing



natural disasters, provided me with invaluable insights and opportunities to enhance my expertise. My collaboration with Japanese counterparts significantly contributed to strengthening my career in the field of water resources. With the Bridge Fellowship Program, I am excited to further deepen my collaboration with my long-time friend and reconnect with my former laboratory at Nagoya University.

• **What do you think about doing research in Japan? Did you experience anything interesting and impressive, or difficult?**

I have found that conducting research in Japan is a highly enriching experience. Japanese researchers exhibit a remarkable level of dedication and diligence in their work. They show great attention to detail. I am very impressed by how they organize their work. Observing how Japanese researchers plan and execute their studies has taught me valuable lessons about conducting research effectively. In Japanese universities, each laboratory consists of only a few faculty members, making it an independent unit with a distinct focus on a specific research area. This structure allows each laboratory to concentrate on its core research topic and delve deep into its exploration. Notably, this approach has influenced research practices in Thailand, with many universities in my home country adopting similar research unit concepts in recent years.

• **Do you have any advice for researchers who are interested in going to Japan?**

Based on my own experience, foreign researchers can benefit from the supportive academic and living environment provided by Japanese universities. While not essential, having some proficiency in Japanese can enhance the experience and enable a deeper immersion in the culture. It's worth noting that Japanese culture values respect and privacy, and emotional expression may differ from what some researchers are accustomed to. However, Japan offers a beautiful and safe environment that seamlessly combines cutting-edge technology with rich traditions, making it a unique and rewarding destination for research and exploration.

<Bridge Fellowship Program>

BRIDGE Fellowship Program is provided exclusively for regular members of officially established JSPS alumni associations who have conducted research activities in Japan under the Postdoctoral Fellowships for Foreign Researchers or other JSPS programs. It gives them an opportunity to create, sustain and/or strengthen research collaborations with Japanese colleagues.

The objective is to build strong networks among researchers in Japan and other countries through a variety of activities.



Interviewer: Naohito Okuya

活動報告 Activities

バンコク研究連絡センターでは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である JSPS 海外同窓会の支援を積極的に行っており、タイ・インド・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア・マレーシアの計 7 つの同窓会組織や、各国の研究資金配分機関などと協力し、積極的にシンポジウムやイベントを開催しています。

JSPS Bangkok Center actively supports the JSPS Alumni Association, an organization of researchers who have experience visiting Japan through the Japan Society for the Promotion of Science's international exchange programs. We collaborate with a total of seven alumni association organizations in Thailand, India, Bangladesh, Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia, as well as research funding allocation agencies in various countries, to actively organize symposiums and events.

■バンコク研究連絡センターが「第 1 回南アジア・東南アジア JSPS 同窓会代表者会議」を開催（9 月 4 日）

■JSPS Bangkok Office held “1st JSPS Alumni Association President Meeting in South and South East Asia” (September 4th)

9 月 4 日に、当センター主催で第 1 回南アジア・東南アジア JSPS 同窓会代表者会議を開催しました。会議には当センターが管轄する計 7 つの同窓会（インド、バングラデシュ、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、マレーシア（*））の会長、副会長らが参加しました。

はじめに大谷センター長から開会のあいさつを、次に各同窓会から活動内容の紹介を行いました。その後、JSPS 同窓会に加入するメリットなどについて議論が行われました。今回は 7 同窓会が横断的に意見交換を行う初の機会であり、グッドプラクティスの共有などを通じた各同窓会の活動の活性化や、同窓会同士のつながりの深化が期待されます。

JSPS Bangkok Office held the online meeting “1st JSPS Alumni Association President Meeting in South and South East Asia” on September 4th. The meeting was attended by the presidents and vice-presidents of seven alumni associations which include India, Bangladesh, Thailand, the Philippines, Nepal, Indonesia, and Malaysia (*).

At the beginning of the meeting, Director Otani delivered opening remarks, followed by presentations from each alumni association outlining their activities. Subsequently, there was a discussion about the benefits of joining the JSPS alumni associations. Since there had been limited opportunities for discussions and exchanges of ideas among the 7 alumni associations in the past, this meeting facilitated lively exchanges of ideas among them.



参加者

Attendees of the meeting

* 設立順（Order of establishment）

■フィリピン同窓会（JAAP）らが Seminar Series「GREENING THE ECONOMY WITH SCIENCE, INNOVATION AND FINANCE」を開催（5月11日）

■JAAP held the Seminar Series “GREENING THE ECONOMY WITH SCIENCE, INNOVATION AND FINANCE” (May 11st)

フィリピン同窓会（JAAP）は、5月11日にフィリピンの De La Salle University および当センターと共催で、Seminar Series「GREENING THE ECONOMY WITH SCIENCE, INNOVATION AND FINANCE」を、対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。

セミナーでは、大谷センター長がオンラインで開会のあいさつを行い、以下の講演が行われました。

On May 11, 2023, JSPS Alumni Association of the Philippines (JAAP) held the hybrid seminar of Seminar Series “GREENING THE ECONOMY WITH SCIENCE, INNOVATION AND FINANCE” in collaboration with De La Salle University and JSPS.

The Director Dr. Otani delivered opening remarks and the lectures were delivered by the speakers, as follows.

<講演タイトル（Lecture Titles）>

■ The Status of Biological Control Approaches against Aedes-borne Disease: How Far are we in effectively controlling this Vector? (Dr. Thaddeus Carvajal, De La Salle University)

■ Sustainable Pest Management Greener-Based Approaches (Dr. Divina Amalin, De La Salle University)

■ A Tale of Two Oil Spills: Deepwater Horizon (USA) and MT Princess Empress (Philippines)

(Dr. Hernando Bacosa, Mindanao State University Iligan Institute of Technology)

■ Greening Monetary Policy

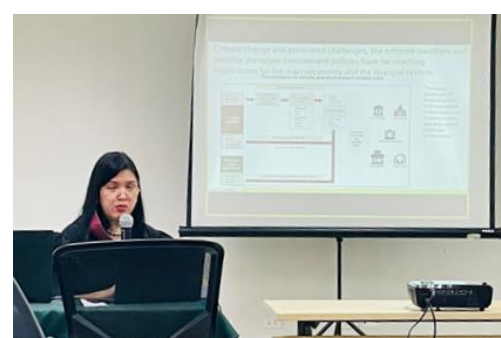
(Dr. Laura Fermo, the Bangko Sentral ng Pilipinas)



開会のあいさつをする大谷センター長
Director Otani delivering opening remarks



セミナー参加者
Participants of the seminar



講演の様子
Dr. Laura Fermo

■タイ同窓会（JAAT）らが「Manuscript Writing Workshop」を開催（7月22、23日）

■JAAT held “Manuscript Writing Workshop” (July 22nd - 23rd)

7月22、23日に、JSPS タイ同窓会（JAAT）とタイ学術研究会議（NRCT）、当センターがチェンマイ大学の協力のもと、「Manuscript Writing Workshop」をタイ・チェンマイで開催しました。このワークショップは、現役の教員が学生や若手研究者に対して論文執筆の指導を行うもので、総勢120名以上の参加者に対し、コンケン大学の5名の教員が論文の書き方について指導しました。

ワークショップの冒頭では大谷センター長があいさつで論文執筆の重要性を語り、小西国際協力員がJSPSに関する事業説明を行いました。またこれに先立ち、7月21日には、チェンマイ大学で教員、学生ら約20名に対し、JSPS 事業説明会を行いました。

JSPS Thailand Alumni Association (JAAT), National Research Council of Thailand (NRCT), and JSPS Bangkok Office organized a Manuscript Writing Workshop on July 22nd and 23rd in Chiang Mai, with the support of Chiang Mai University. The workshop was designed to provide guidance on paper writing from active professors to students and young researchers. Over 120 participants attended and 5 professors from Khon Kaen University provided instruction on effective paper composition.

At the beginning of the workshop, Director Dr. Otani delivered opening remarks emphasizing the significance of paper writing. International Program Associate Mr. Konishi provided the JSPS guidance seminar. Preceding this, JSPS guidance seminar was held for approximately 20 faculty members and students on July 21st at Chiang Mai University.



開会のあいさつをする大谷センター長
Director Otani delivering opening remarks



ワークショップの様子
State of the workshop



JSPS の事業説明をする小西国際協力員
Mr. Konishi explaining about JSPS international programs

■タイ同窓会（JAAT）らが「JAAT-NRCT-JSPS Joint Seminar」を開催（8月8日）

■JAAT held "JAAT-NRCT-JSPS Joint Seminar" (August 8th)

8月7～11日に開催された Thailand Research Expo 2023 において、8日にタイ同窓会（JAAT）とタイ学術研究会議（NRCT）、当センターが共催で「JAAT-NRCT-JSPS Joint Seminar」を開催しました。本セミナーは「PM 0.1 and Low Carbon Society」をテーマに、日本からの研究者2名、タイの研究者2名の計4名が講演を行いました。

From August 7th to 11th, during the Thailand Research Expo 2023, the Thai Alumni Association (JAAT), the National Research Council of Thailand (NRCT), and JSPS Bangkok Office jointly organized the "JAAT-NRCT-JSPS Joint Seminar" on August 8th. This seminar had the theme of "PM 0.1 and Low Carbon Society," and a total of four speakers, including two researchers from Japan and two from Thailand, delivered presentations.

<講演タイトル（Lecture Titles）>

■ The Energy Transition Low Carbon Economic Perspectives in Japan

(Associate Prof. Andrew Chapman, International Institute for Carbon-Neutral Energy Research (I2CNER), Kyushu University)

■ Carbon Negative Technology for Agricultural Society

(Associate Prof. Orasa Suksawang, Chairman, BEBC En SAFE Life Foundation)

■ Present status of PM0.1 in Southeast Asia - Importance, Status and Remaining Issues to be investigated -

(Prof. Masami Furuuchi, Kanazawa University)

■ Why PM0.1 is important and what should be done in Southeast Asia?

(Associate Prof. Perapong Tekasakul, Prince of Songkla University)



開会のあいさつをする大谷センター長
Director Otani delivering opening remarks



会場の様子
State of the workshop



登壇者
Speakers

■マレーシア同窓会（JAAM）らが「JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM」を開催（8月19日）

■JAAM held “JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM” (August 19th)

8月19日に、JSPS マレーシア同窓会（JAAM）と Academy Science Malaysia（ASM）、当センターが共催で「JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM」をマレーシア・クアラルンプールで開催しました。本セミナーは「Towards the Science of Active Aging」をテーマに、日本からの研究者1名、マレーシアの研究者2名の計3名が講演を行いました。またシンポジウムの冒頭では大谷センター長があいさつをし、億谷国際協力員がJSPSに関する事業説明を行いました。シンポジウム終了後には、同窓会総会が開催されました。

JSPS Malaysia Alumni Association (JAAM), the Academy of Sciences Malaysia (ASM), and JSPS Bangkok Office jointly organized the "JAAM-ASM-JSPS STIE SYMPOSIUM" on August 19th in Kuala Lumpur, Malaysia. The theme of this seminar was "Towards the Science of Active Aging," and a total of three speakers, including one researcher from Japan and two from Malaysia, gave presentations. At the beginning of the symposium, the Director of the JSPS Bangkok Office, Dr. Otani delivered opening remarks, and International Program Associate Mr. Okuya provided an explanation of JSPS international programs. Following the conclusion of the symposium, the alumni association held its general meeting.

<講演タイトル（Lecture Titles）>

■ Deciphering the Mysteries of Sleep

(Prof. Dr. Masashi Yanagisawa, Director, International Institute for Integrative Sleep Medicine, University of Tsukuba)

■ Active Aging at the Confluence of Gendered Multiple Narratives: A Personal Reflection

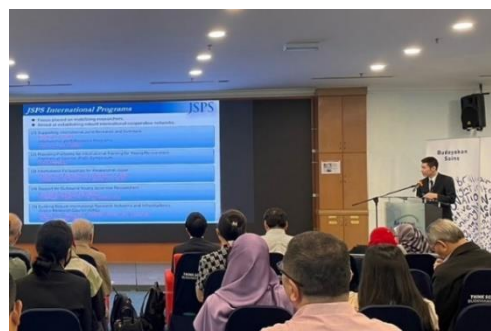
(Prof. Emerita Dato' Dr. Rashidah Shuib, Interdisciplinary Health Sciences Unit, School of Health Sciences, Universiti Sains Malaysia)

■ Challenges Facing the Elderly in an Ageing Society

(Dato' Lawrence Cheah Seong Paik, International President, Rose Charities International)



開会のあいさつをする大谷センター長
Director Otani delivering opening remarks



JSPS の事業説明をする億谷国際協力員
Mr. Okuya explaining about JSPS international programs



JAAM メンバーとの集合写真
JAAM members

■インド同窓会 (IJAA) らが「13th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2023)」を開催 (9月8、9日)

■IJAA held “13th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2023)” (September 8th - 9th)

9月8、9日に、JSPS インド同窓会 (IJAA)、シバジ大学は、「13th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2023)」をインド・コールハーブルで開催しました。このカンファレンスでは科学技術に関してインド、日本、シンガポールの研究者ら総勢 14 名が講演を行い、コールハーブル地域の研究者やシバジ大学の学生ら 500 名以上が参加しました。シンポジウムの冒頭では杉野理事長がオンラインであいさつを行いました。また小西国際協力員が JSPS の事業説明を行いました。

JSPS India Alumni Association (IJAA) and Shivaji University organized the "13th India-Japan Science and Technology Conclave: International Conference on Frontier Areas of Science and Technology (ICFAST-2023)" on September 8th and 9th in Kolhapur, India. This conference brought together 14 researchers from India, Japan, and Singapore to deliver lectures on various aspects of science and technology, with over 500 participants including researchers from Kolhapur and students from Shivaji University in attendance. At the beginning of the symposium, JSPS President Tsuyoshi Sugino delivered opening remarks. Additionally, International Program Associate Mr. Konishi provided an explanation of JSPS international programs.

<日本人講演者の講演タイトル (Lecture Titles of Japanese speakers) >

- Molecular- Scale Visualization and Analysis of Biomolecules by Atomic Force Microscopy (Prof. Hirofumi Yamada, Professor Emeritus, Graduate School of Engineering, Department of Electronic Science and Engineering, Kyoto University)
- Metamaterials: Its Wide-Range Science and Flexible Technology (Prof. Osamu Sakai, Professor, School of Engineering Department of Electronic Systems Engineering, Institute of Advanced Engineering, The University of Shiga Prefecture)
- Investigation on Vapor- Grown Ice Surface near the Freezing Point by Atomic Force Microscopy (Prof. Yuji Miyato, Associate Professor, Faculty of Advanced Science and Technology, Ryukoku University)



開会のあいさつをする杉野理事長
JSPS President Tsuyoshi Sugino delivering opening remarks



JSPS の事業説明をする小西国際協力員
Mr. Konishi explaining about JSPS international programs



IJAA メンバーとの集合写真
IJAA members

その他の主な活動（2023 年 4～9 月）

Other activities of JSPS Bangkok Office from April to September 2023 are as below.

■ 6 月 21 日 ASEAN 科学技術協力委員会（AJCCST-12）に出席

June 21st Attendance at MEETING OF THE ASEAN-JAPAN COOPERATION COMMITTEE ON SCIENCE AND TECHNOLOGY (AJCCST-12)

■ 8 月 11～20 日 科学技術博覧会にブース出展

August 11st to 20th Booth exhibition at Thailand National Science and Technology Fair 2023

■ 8 月 15 日 明治大学学生に事業説明

August 15th Explanation about JSPS international programs to students of Meiji university

■ 8 月 16 日 ナレースワン大学での留学説明会にブース出展

August 16th Booth exhibition at study abroad information session at Naresuan University

■ 8 月 31 日 ASEAN University Network プログラム参加学生に事業説明

August 31st Explanation about JSPS international programs to AUN Study and Visit Program students from Japan

■ 9 月 5 日 金沢大学学生に事業説明

September 5th Explanation about JSPS international programs to students of Kanazawa university

■ 9 月 9 日 電気通信大学（UEC）セミナーで事業説明

September 9th Explanation about JSPS international programs at the 10th UEC Seminar in ASEAN, FY2023

■ 9 月 17 日 NanoLSI 国際シンポジウムで WPI 事業説明およびブース出展

September 17th Explanation about World Premier International Research Center Initiative (WPI) and booth exhibition at the First International Symposium of Nano Life Science: Nano Biotechnology, Biosensor, Computation (NanoBioCoM2023)

■ 9 月 20 日 東京農工大学学生に事業説明

September 20th Explanation about JSPS international programs to students of Tokyo University of Agriculture and Technology

■ 9 月 26 日 プリンソブソンクラ大学で事業説明会を開催

September 26th Explanation about JSPS international programs at Prince of Songkla University

コラム Column

センター職員によるコラム「東南アジア見て歩き」です。今回は億谷国際協力員がチェンマイでのソンクラーンでの様子をお届けします。

タイでは毎年4月中旬の旧正月の時期にソンクラーンと呼ばれる水かけ祭りが開催されます。タイの各地で水かけ祭りが行われ、観光客含め大勢の人が楽しんでいます。私は7年前に初めてパタヤでソンクラーンに参加しました。大勢の観光客やタイ人が水鉄砲やバケツで容赦なく水をかけ合っている様子に驚きましたが、自分自身も目一杯楽しむことができました。毎年4月は仕事が忙しいことが多く、タイへ旅行に行く時間が無かったのですが、今回はタイに住んでいるので参加することにしました。チェンマイには私自身行ったことがなかったのですが、チェンマイに行くことにしました。



チェンマイ国際空港に到着後、ソントウと呼ばれる小型トラックの荷台に座る乗り合いタクシーを利用してホテルに向かったのですが、道路にはたくさんの人が待ち構えており、道路を横切る車に対して水鉄砲やバケツで水をかけていました。私が乗ったソントウの後方はドアがなく開放されていたため、そこから水をかけられてしまい、ホテルに到着するまでにすでにずぶ濡れになりました。しかし、タイの4月は特に気温が高く、すぐ乾くのでマイペンライ（問題ない）です。

ホテルに到着後、防水バッグに入れた貴重品と水鉄砲を持ち、サンダルを履き、準備万端な状態で市街に繰り出しました。私が宿泊したエリア（ターペー門近く）は特に人が多く集まるエリアで、タイ人や多くの観光客が水をかけ合っていました。周辺を歩き回っていたら近くにお寺があり、若い僧侶の方が道行く人に水をかけていました。私もせっかくなので、写真を撮った後に水をかけてもらいました。



翌日も水かけ祭りは行われていたのですが、私自身初めてのチェンマイで観光地にも行きたかったのですが、いくつかお寺巡りをしました。ドイ・ステーブは山頂に位置するチェンマイで有名な寺院です。市街から車で1時間弱かかり、寺院がある山頂まで306段の階段を登ったため疲れましたが、寺院は金色で煌びやかで、中央にある仏塔は美しく、山頂まで見にきてよかったと思える場所でした。ワット・チェディルアンはチェンマイ中心部にある寺院です。写真の仏塔は壮大で、寺院の敷地も非常に広く、ドイ・ス

テーブとはまた異なった雰囲気や良さを感じました。またワット・チェディルアンでは猫を数匹見かけました。恐らく僧侶の方々が餌や水を与えて飼っているのだと思います。少し近づいても全然逃げなかったので、ベンチでくつろいでいるところを撮りました。タイは人慣れしている猫がたくさんいて、癒されています。（本当は触りたいのですが、狂犬病を持っている可能性があるのを見るだけに留めています）初めてのチェンマイかつ私自身



2回目のソンクラーンを楽しむことが

できました。バンコクでのソンクラーンは未体験なので、来年以降はバンコクで参加したいと思います。



アクセス&コンタクト Access & Contact

■アクセス Access

- ・ BTS Asok 駅、1 番出口から徒歩約 5 分
 - ・ MRT Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩約 5 分
- 5-minute walk from Exit 1 at BTS Asok station and MRT Sukhumvit station

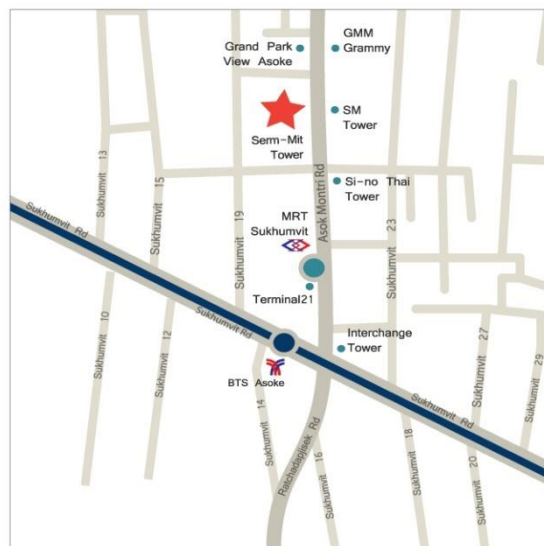
■コンタクト Contact

1016/3, 10th Fl., Serm-mit Tower,
159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand
Tel: +66-2-661-6533

Website: <http://jsps-th.org>

Email: bkk@overseas.jsps.go.jp

Facebook: JSPSBKK



■表紙写真紹介 Cover Photo Introduction

今回の表紙では、バンコクにある「ワット・パクナム」を紹介しました。写真映えする寺院で、ガイドブックや SNS などで見ただけでも美しいですが、実際に足を運んで見てみるとより美しく幻想的でした。現地のタイ人や観光客もたくさんおり、皆写真を撮っていました。バンコクにいらした際はぜひ足を運んでみてください。

In this issue's cover photo, we introduce "Wat Paknam" in Bangkok. It's a temple that is photogenic, and many of you may have seen it in guidebooks or SNS. While the photo alone is beautiful, visiting it in person reveals it's even greater beauty and enchantment. Many local Thai people and tourists were there, capturing photos. When you visit Bangkok, be sure to stop by and see it for yourself.



JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」 JSPS Bangkok Office NEWSLETTER

監修：大谷吉生 編集担当：福田外志恵、億谷尚仁 Directed by Yoshio Otani, Edited by Toshie Fukuda, Naohito Okuya